

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

第3回
地球環境未来都市シンポジウム

RESEARCH CENTER FOR THE FUTURE CITY DESIGN
CORRESPONDING TO GLOBAL ENVIRONMENT PROBLEMS
RESEARCH GROUP FOR THE FUTURE CITY DESIGN
CORRESPONDING TO GLOBAL ENVIRONMENT PROBLEMS
<http://future-cities.ynu.ac.jp>



【講演資料】 秦野市民のライフスタイルとエコ意識・行動の関係

岐阜大学 准教授
合掌 顕 氏

足元から考える環境未来都市「秦野」

地下地質・水熱循環構造から解き明かす秦野市の環境と防災

2013年9月14日(土) 13:00 → 17:00

秦野市保健福祉センター (神奈川県秦野市緑町16番3号/☎0463-84-5511)

主催 横浜国立大学/環境工学秦野協励研究会/地球環境未来都市研究会 後援 秦野市/神奈川県/横浜市/都留市
地球環境未来都市研究会幹事会 神奈川県政策研究・大学連携センター/横浜市温暖化対策統括本部/都留市/(独)海洋研究開発機構アプリケーションラボ/東京大学登坂博行研究室/横浜国立大学地域実践
教育研究センター/朝日製作所情報・通信システム社/大成建設機技術センター/東京ガス機エネルギー企画部/ESRI/ESRI Japan(株)

1. 研究の目的

私は環境心理学を専門にしています。秦野市において環境未来都市ということではどのようなことができるかと考えたときに、秦野市の中の自然、特に湧水などを、例えば夏季の耐暑行動、暑さを避ける行動に使えないかと考えました。一方で、秦野市役所の方から、夕涼みをしている人はほとんどいない、湧き水はあるけれどもそれほど利用されていないという実情を伺いました。

環境があるにもかかわらず、それがエコ行動に直接つながらないのは、他に原因があるのではないかとすることで、環境と行動の関係は市民のライフスタイルによって異なるのではないかと図を考えてみました(図1)。

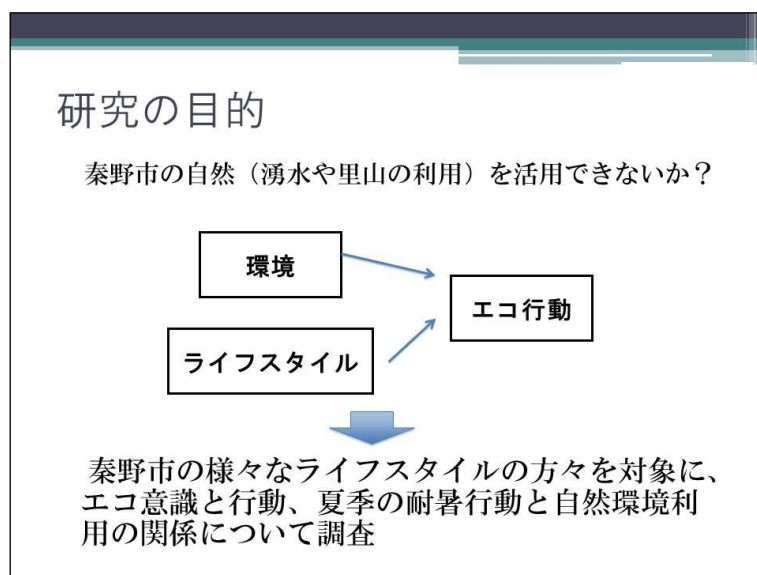


図 1

2. アンケート調査

そこで、秦野市のさまざまなライフスタイルの方を対象として、エコ意識と行動、夏季の耐暑行動と自然環境利用の関係について、アンケート調査を行いました。アンケート調査は、市内の 4 地区の自治会に依頼し、各自治会を通じて配布していただくという形で行いました。

その結果として、配布の仕方も関係あるのかもしれませんが、久野先生のご発表とは逆に、60 歳以上の方が非常に多くなっています。

3. 調査項目

今年の 6~7 月にアンケートを実施し、データの入力等が終わったのが 8 月の終わりでした。図 2 にあるよう

てはまる」と答えている傾向があります。クラスター3 は、「老後」というキーワードであるとか、地域の習慣を重視するような回答の傾向が見られます。クラスター4 は、読書、映画鑑賞、旅行などの余暇や、特に食に関する記述が多いという結果でした。

まとめると、クラスター1 は、ライフスタイルの特徴はないのですが相対的に 40 代が多く、職業は会社員、アルバイト、パートが多い。居住年が比較的短い。比較的若い方のクラスターになります。クラスター2 は、どのスタイルにも「当てはまる」とされていて、あくまでも他のクラスターと比較してですが、90 代の方が多い。多趣味・積極型です。クラスター3 は、先ほどお話したとおり、老後重視・地域密着型です。クラスター4 は、余暇・食生活重視型としています。

6. ライフスタイルとエコ意識

ライフスタイルとエコ意識の比較です(図 4)。地球温暖化、オゾン層の破壊、無秩序な森林伐採、生物多様性の喪失、他国からの汚染物質の流入という五つのエコ意識のうち、森林伐採に関して、クラスター1と3にだけ有意な差がありました。温暖化でもこれらのクラスター間に有意な傾向があったという結果です。

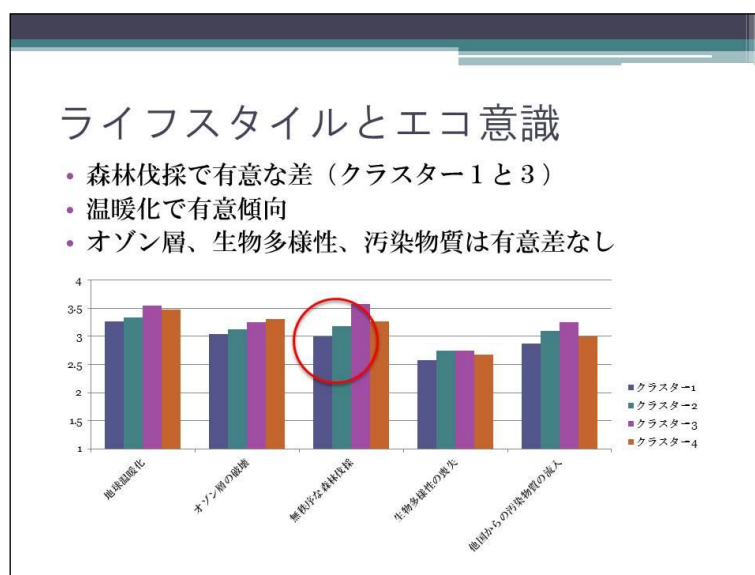


図 4

7. ライフスタイルとエコ行動

エコ行動に関しては、省エネタイプの電化製品を選ぶ、照明やテレビのスイッチをこまめに切るといったところはどのクラスターでも共通しているのですが、一方で、各クラスターで特徴的な結果も見られています。

例えば、テレビ、電子レンジなどのコンセントを抜くというのは、省エネ行動の中でも比較的面倒な行為ですが、そういう行為を積極的に行っている方が多いのがクラスター2 であるとか、里山の保全活動に参加するという方は全体的に少ないのですが、相対的に見るとクラスター3 が多いという結果になっています(図 5)。

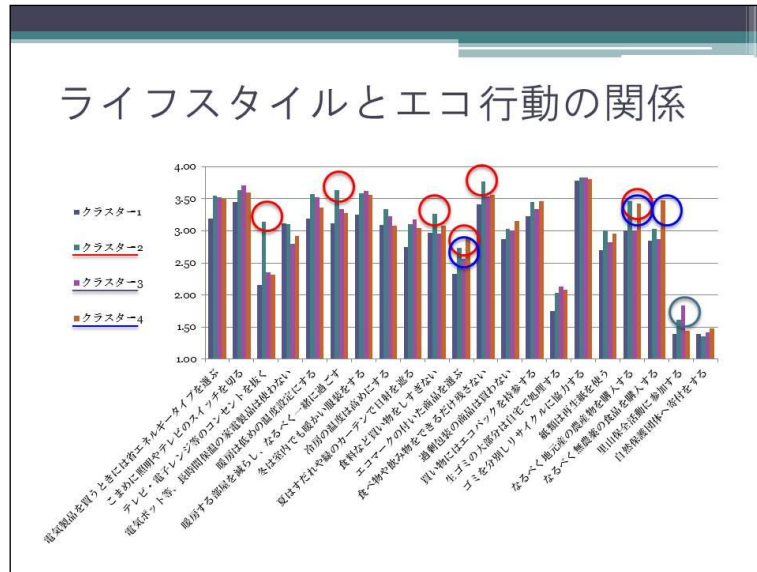


図 5

8. まとめ

まだ分析の途中ですが、現時点での結果をまとめさせていただきます。アンケート調査の対象者はライフスタイルによって四つのクラスターに分類され、エコ意識に関してはどのクラスターもおおむね高いのですが、「地球温暖化」や「森林伐採」でクラスターによる差が見られました。エコ行動に関しては、省エネルギーやごみの分別はどのクラスターでも実践されていますが、省エネ行動の程度や食品に対する意識、里山保全活動等ではクラスターによる差が見られています。今後は、冷暖房機器の使用状況や保全活動との関連について分析していく予定です。